

# 公民館かながわ



愛川町文化会館

## 目次

県公連創立70周年を迎えて 木下顧問をしのぶ	2
令和4年度 生涯学習指導者研修 「公民館等担当者コース」事業報告	3～5
令和4年度 公民館館長・職員等研修会 全国公民館連合会表彰被表彰者紹介	6
令和4年度 館長・公民館運営審議会委員等研修会	7
第64回神奈川県公民館大会	8
文部科学省優良公民館表彰 被表彰館の紹介	9
わが館では	10
山北町立生涯学習センター 座間市立東地区文化センター	
サークル紹介	11
『大和ハーモニカ愛好会』 (大和市生涯学習センター)	
『大井町ウクレレサークル レレ・アロハ』 (大井町生涯学習センター)	
総会予告・表紙解説・編集後記他	12

県公民館連絡協議会  
創立70周年を迎えて

神奈川県公民館連絡協議会

会長 夏井 美幸

私は平成23年度から神奈川県公民館連絡協議会（以下「県公連」という）に副会長としてお世話になり、令和3年度より県公連会長に就任いたしました。

県公連60周年記念誌作成にも関わり、60周年記念神奈川県公民館大会（小田原市）では県公連の歴史を年表と写真でつづる展示を行ったことを思い出します。

昨年、県公連は70周年を迎え、6月に記念誌を発行しました。作成にあたり、これまでの県公連の活動を過去の資料から確認しました。創立当初からの活動を紹介します。

一 県公連の結成・創立

昭和27年3月10日、神奈川県公民館連絡協議会結成大会を川崎市立稲田公民館で開催。県下11の公民館でテーマごとに研究

二 県公連の研修会

昭和34年度 公民館職員研修会「施設運営の現状と問題点について」を藤沢公民館で開催

三 県公連公民館大会・表彰

昭和34年度 第1回神奈川県公民館大会を藤沢市鶴沼公民館で開催。優良公民館表彰を実施

四 県公連「公民館かながわ」

昭和47年度（昭和48年3月15日）第1・2号合併号発行  
五 公民館研究集会・大会

関東甲信越静公民館研究集会の神奈川県担当は、第3回昭和37年度 横浜市開催から始まり箱根町・藤沢市・厚木市・横須賀市で開催。平成28年度は第38回全国公民館研究集会・第57回関東甲信越静公民館研究大会 in さがみはらを相模原市で開催

このように県公連は結成以来、研修会、神奈川県公民館大会、全国・関東甲信越静公民館研究大会の開催、広報誌の発行、公民館実態調査等の調査研究活動を実施してきました。

ふり返りますと、この10年は、東日本大震災・豪雨等の自然災害等により、公民館の果たす役割を問う機会となりました。特にこの3年間は新型コロナウイルス感染症により、各自自治体の公民館と同様、県公連も「つどう・まなぶ・むすぶ」活動が厳しい状況にありました。しかし、社会教育を止めず、地域の拠点としての公民館を支えるため、新たな手法も取り入れ、それぞれの状況に応じ、県公連の活動を行いました。今後も公民館が地域の活性化や地域課題の解決に寄与し、学びをとおした住民のつながりを深めていけるよう、県公連は各公民館とともに努めてまいりたいと思います。

今は亡き盟友  
木下氏に捧げる一文

神奈川県公民館連絡協議会

顧問 神崎 節生

木下さん、私より先に逝っては駄目じゃないですか。物事には順序つてものがあるんですよ！木下氏は「そんなこと、わかっていますよ」と言いそうですネ。それでも言いたいのです。

知己を得て短期間でしたが、密度の濃いおつきあいをしてきたよな気がします。

県公連をとおしての諸活動、そして疲れを癒す酒席で五歳違いの兄弟のようでした。六年生の私と一年生の貴兄、会議後の一杯会、そして話題は県公連と公民館のことでしたネ。

お互いに公民館が好きでしたネ。何故なら自己の成長にいつも刺激を与えてくれる「公民館の学習活動」でしたから。

県公連の研修会や関東ブロック大会、全国公民館連合会の全国大会など、共に様々な刺激を受け、自己の成長に役立てることができましたネ。参加終了後の反省会が議論の場ともなりましたネ。

お酒が好きなことはもちろんですが、やはり「公民館」が好きだったんですネ。「発表はどうだった」「議論はど

うだった」と、実りのある反省会をしていましたネ。もう、こんなこともできなくなりました。本当に、「寂しくなりました。一人で飲む酒は苦いだけです。」

できることなら、「木下さん、戻ってきて」と叫びたいくらいです。今は亡き「森氏（前副会長）」にお会いになりましたか。よろしく伝えてください。

いずれ、そのうち、そちらに行くでしょうから……。ただ、今は県公連のこともありますし、全公連もまた……と頼りないことを言っています、一つ一つ責任を全うしてからのことです。

木下さん、貴君が去って本当に淋しくなりました。もう貴君の世界で一杯やるより仕方ないですネ。今しばらく待っていてください。その時が来ましたら盛大にやりましょう。

共に活動した県公連、淋しくなりましたが、貴君ががっかりしないよう、残りの人生をかけて努力してまいります。どうぞ、陰ながら応援を、お願い致します。

木下様の心の安らぎを祈念しつつお別れのことばとさせていただきます。

木下敬之氏は、平成25年度（令和2年度）に県公連会長を務められ、令和4年3月に逝去されました。長きに渡るご尽力に感謝申し上げます。

(3)

令和4年度  
生涯学習指導者研修  
「公民館等担当者コース」  
事業報告

生涯学習指導者研修「公民館等担当者コース」は、県教育委員会と県公連との共催事業です。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、全ての研修をオンラインとの併用で行いました。対面とオンライン、それぞれの受講者に対応した研修を組み立てることは難しく、試行錯誤の連続でした。

特に、オンラインでの情報交換をどのように行えばよいか、よい手立てが見つからず、うまくいかないこともありました。オンライン上では、同時に話をするのが困難であることが、スムーズにいかない原因の一つです。そこで、事前の説明を丁寧に行うことや、司会役をお願いすること、チャット機能を活用することなどの工夫を重ねました。そのような中、オンライン受講者の方々による積極的な発言によって、充実した情報交換の時間となることもありまし

た。音声が届きにくいなど、回線が不安定なときもあり、オンライン受講者の方々にはご迷惑をおか

けしました。ご協力いただき感謝しております。対面とオンラインを合わせて、延べ103人にご参加いただきました。

本コースのテーマは「生涯学習・社会教育の地域拠点としての公民館のあり方と職員の能力の向上」です。様々なテーマでの講義、公民館の事例発表や施設見学、教育事務所社会教育主事による参加体験型のアイスブレイキング、参加者同士の情報交換などの従来からの内容に加え、今年度は新たに座談会形式で学ぶ時間もありまし

た。座談会形式を取り入れたのは、講義や事例発表の内容について、受講者の方がさらに考えを深め、発想を広げられる研修にしたいとの思いがあったからです。第3回の座談会のアンケート結果には、「リラックスした雰囲気、自身の所属で行えることをじっくり考えることができた」という参加者からの声がありました。全5回行った本研修は、様々な形で学び、気づきを得られる貴重な機会となりました。

《第1回》 5月24日(火)

会場 県総合教育センター

○情報提供「PLANEETかながわと生涯学習情報コーナーの紹介」

県立図書館広報・生涯学習推進課主事

川野 茉衣子 氏

○講義「生涯学習・社会教育関係職員の果たすべき役割」  
明治学院大学教授  
坂口 緑 氏

○講義「つながりづくりを支援するオンライン時代の学びで大切なこと」  
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター専門調査員  
菅谷 政之 氏

○情報交換「新しい学びの場づくり」  
第1回は、社会教育担当者コースと合同開催で、年度の最初の回のため、公民館や社会教育の担当に初めてなった方に役立つ内容となるように心掛けた。

◆情報提供「PLANEETかながわと生涯学習情報コーナーの紹介」  
・「PLANEETかながわ」について  
①生涯学習情報の検索  
②情報登録の流れ  
③利用機関  
・生涯学習情報コーナーについて  
①新しい本館への移転  
②資料、情報の提供  
③生涯学習相談

◆講義「生涯学習・社会教育関係職員の果たすべき役割」  
・生涯学習とは何かについて、教育基本法第3条、中央教育審議会1981年答申及び、波多野完治、ポール・ラングランの言葉などを基に解説  
・中央教育審議会2018年答申「人口減少時代の新しい地域

づくりに向けた社会教育の振興方策について」を基に、地域における社会教育の在り方と今後の社会教育施設の在り方について解説  
・人づくり+地域づくりの事例として、シブヤ大学、こすぎの大学、みんなの尼崎大学の紹介  
◆講義「つながりづくりを支援するオンライン時代の学びで大切なこと」  
・社会教育実践研究センターの事業について説明  
・国の動向について、第10期中央教育審議会生涯学習分科会「議論の整理」に沿って解説  
・社会教育実践研究センターの取り組みについて、オンライン時代だからこそ大切にしたい双方向性を担保する手立てなどについて説明  
・全国での取り組みについて、オンラインの活用事例を中心に紹介



情報交換の様子



《第2回A》 6月10日(金)

会場 相模原市立上鶴間公民館

○「即、学級・講座に使えるアイスブレーキング」

湘南三浦教育事務所  
社会教育主事兼指導主事

品田 博行 氏

県西教育事務所  
社会教育主事兼指導主事

森 和真 氏

○事例発表「住民がひとつになった事業」

相模原市立上鶴間公民館  
主事

高島 佳子 氏

相模原市立麻溝公民館  
主事

松田 好恵 氏

○施設見学  
○情報交換

◆「即、学級・講座に使えるアイスブレーキング」

・対面とオンラインに分かれて実施

- ・「部屋を動いてみたら」では質問に対して「そう思う」か「思わない」を決めて答えの方に移動
- ・「指運動」では全体で指運動をおこなった後、指遊びや指技を近くの人と見せ合う。
- ・「せーのでパン、同時にパン、みんなでパチパチ」では全体でタイミングを合わせて手をたたく。

◆事例発表「住民がひとつになった事業」

・「夢ひろがる2020上鶴間事業」について紹介。新型コロナウイルス感染症拡大防止のために休館を余儀なくされるなかで、ICTを活用した「おうちde公民館」の取組みなどについて説明

・「歩いて発見 かみつるまてくてくマップ」の紹介。住民が主役となってスタートした事業について説明

・「学びの場 活動の場 つながる場」としてのICT事業の紹介。緊急事態宣言↓ICTを活用↓動画配信↓Zoom事業開催という一連の流れについて説明。その中で、対面事業時のZoom練習の様子や、Zoomで作った作品を対面事業と対面事業をつなげる工夫などについて紹介



アイスブレーキングの様子

《第2回B》 6月23日(木)

会場 平塚市立横内公民館

○「即、学級・講座に使えるアイスブレーキング」

県央教育事務所  
社会教育主事兼指導主事

齊藤 愛 氏

中教育事務所  
社会教育主事兼指導主事

中山 理恵 氏

○事例発表「子どもは地域の宝！平塚市立横内公民館の取組みについて」

平塚市立横内公民館  
公民館主事

広永 倫明 氏

○施設見学  
○情報交換

◆「即、学級・講座に使えるアイスブレーキング」

・最初は対面とオンラインそれぞれに分かれて行い、その後に合わせてアイスブレーキングを行った。対面とオンラインの違いや共通点などが確認できた。

・オンライン「OXジェスチャー！」「Zoomの名前変更」

・対面「いろいろじゃんけん」

・オンラインと対面合同「みんなの1円玉」①1円玉を思い浮かべる。②1円玉の表と裏を描く。③ペアで共有する。オンライン参加者は画面に見せる。④実際の1円玉と見比べる。

◆事例発表「子どもは地域の宝！平塚市立横内公民館の取組みについて」

・地元有志による「横内オリジナルソング YOKOUCHI!」バンド生演奏当日は公民館主事もピアノ演奏で参加。地域の様々なイベントで披露

・「横内ふるさとカルタ」の紹介。子どもたちが自然に地域の歴史や特徴などを学んでいる様子について説明

・「市民体育レクリエーション(ウオークラリー)」の紹介。コロナ禍で従来型の地域の運動会が実施できなかったため企画された。

・「放課後宿題教室」「子育てサロン(たいよう)」「横内サンサンカフェ」「親子で凧作り教室」「鉄道模型走行会」「防災キャンプ(2019年実施)」など、地域と一緒にづくりあげていった事業の実践について説明



横内オリジナルソング YOKOUCHI!バンド生演奏

(5)

《第3回》 9月15日(木)  
会場 かながわ県民センター

○情報提供「神奈川県公民館連絡協議会について」  
神奈川県公民館連絡協議会事務局  
尾上 夏子 氏

○講義「全国の公民館の講座事例を学ぶ」  
全国公民館連合会事務局 次長  
村上 英己 氏

○事例発表「地域に根ざした公民館事業の展開について」  
平塚市立土屋公民館  
主事・社会教育主事  
秋山 達郎 氏

○座談会「これからの公民館事業の展開について」  
全国公民館連合会事務局 次長  
村上 英己 氏

平塚市立土屋公民館  
主事・社会教育主事  
秋山 達郎 氏

大和市生涯学習センター 副館長  
中村 康恵 氏

◆情報提供「神奈川県公民館連絡協議会について」

- ・社会教育法と公民館の成り立ち
- ・近年の公民館の状況
- ・県県公連の取組み(動画配信用機材貸出し事業など)

◆講義「全国の公民館の講座事例を学ぶ」

・次のポイントに沿って講座の運営の仕方について事例をもと

に解説。①アイディアは組み合わせ②魅力あるテーマを見つけよう③人や団体などのつながりを総動員しよう④楽しさを分けよう⑤「企画」で終わりはしない⑥講義スタイルを工夫しよう⑦PRを工夫しよう⑧インスタ映えする場面をつくろう⑨公民館を居心地よくしよう⑩講座は結局自分がトクする

◆平塚市立土屋公民館による事例発表「地域に根ざした公民館事業の展開について」

- ・企画する際に日頃意識していること①地域に巻き込まれる②アンテナを高く持つ③まずはやってみる④そして自分も楽しむ

- ・土屋公民館の今年度まで6年間の次の事業について具体的に説明
- ・1年目「土沢中探究活動コーディネート」
- ・2年目「土屋三郎宗遠公800遠忌」
- ・「海と山の探検隊」「開館50周年事業」
- ・3年目「復刻事業(ぶらり土屋ウォークラリー)」「地域力アップ勉強会」「図書コーナーリニューアル」
- ・4年目「家庭教育学級(ENJOY土屋)」「土屋っ子応援プレゼント事業」「公民館まつり、土屋っ子フェスティバル」「ふる

さと土屋ホームページ魅力アップ事業」

- ・5年目「高・大学生によるInstagram」「土屋っ子ふれあい鑑賞会(大道芸人Ino)」「盆踊り練習会」「婚活パーティー」
- ・6年目「土屋氏史跡めぐりと与一落語(大河ドラマ鎌倉殿の13人連動事業)」

◆座談会「これからの公民館事業の展開について」

- ・若者を巻き込むためのSNSでの発信の仕方や、他との連携について、能動的に行動するためのポイント、幅広い話題について受講者へ向けて登壇者の立場からアドバイス



座談会の様子

《第4回》 10月12日(水)

会場 県総合防災センター

○施設の概要説明・見学・防災体験

県総合防災センター防災企画課長  
折笠 一成 氏

○講義「防災と公民館」  
アウトドア防災ガイド  
FM西東京パーソナリティ  
あんどう りす 氏

○情報交換

◆施設の概要説明

- ・県総合防災センターの防災知識の普及啓発拠点としての役割
- ・災害活動中央基地としての役割
- ・避難所設置、運営に係るシミュレーションについて説明

◆見学・防災体験

- ・階段放水路体験(左の写真)
- ・震度7の防災体験
- ・最大風速(30メートル/秒)体験

◆講義「防災と公民館」

- ・様々な防災アプリの紹介
- ・水の事故への対応
- ・災害時の食物アレルギーの方への備え
- ・災害時の女性や子どもに対する暴力を防ぐために必要なこと
- ・災害時の汚物対応などについて具体物の例示を交えながら解説



階段放水路体験の様子

(公民館経営・研修部会)

### 令和4年度 公民館館長・職員等研修会

Withコロナ時代の人づくり・つながりづくり・地域づくり  
～コロナ禍を乗り越え、再び地域づくりを進めるには～  
講師 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター 専門調査員

悴田 伸一 氏

令和4年度公民館館長・職員等研修会を5月20日(金)に開催しました。昨年度は新型コロナウイルス感染症対策のため動画配信のみでしたが、今年度は対面とライブ配信のハイブリッド方式での開催となりました。

#### ■「開かれ、つながる社会教育」へ

- ・公民館の原点回帰として、昭和21年のいわゆる「寺中構想」——「郷土の共有和楽を培う文化センター」「みんなが気を合わせて働いたり楽しんだりするための溜まり場」として生まれたことなど——を振り返り、公民館本来の役割や施設の位置づけを確認
  - ・国の動向を平成30年の中央教育審議会答申に沿って解説
  - ・答申では、「Society5.0の実現」「SDGsの採択」など様々な社会の変化を背景として新たな社会教育の方向性や今後の公民館に求められる役割が打ち出された。
- 【新たな社会教育の方向性】
- ①住民の主体的な参加のためのきっかけづくり、
  - ②ネットワーク型行政の実質化、
  - ③地域の

学びと活動を活性化する人材の活躍、そして、④社会教育の進化に向けて「開かれ、つながる社会教育」へ。

#### 【今後の公民館に求められる役割】

- ・住民が主体的に地域課題を解決するために必要な学習を推進する役割
- ・学習の成果を地域課題の解決のための実際の活動につなげていくための役割
- ・地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進するセンター的役割
- ・地域の防災拠点としての役割
- ・地域学校協働活動の拠点
- ・中山間地域における「小さな拠点」の中核となる施設としての役割
- ・外国人が地域に参画していくための学びの場

#### ■Withコロナ時代の人づくり、つながりづくり、地域づくり

- ・国の動向を令和2年の第10期中教審生涯学習分科会「議論の整理」に沿って解説
- ・議論の整理から導き出された3

つのキーワードは、「命を守る」生涯学習・社会教育、「ICT活用デジタル・デバインド解消」「子供・若者の地域・社会への主体的な参画」

・新しい生活様式における研修の具体的な手法について、デメリットもメリットに変える転換やハイブリッド研修でオンライン受講者にリアル会場との隔たりを感じさせない工夫などについて紹介



悴田先生による講話

#### ■研修を終えて

途中のブレイクタイムでも今後10年～20年後には今ある職業の約50%が人工知能やロボットに代替えされると話があり、日本が直面する未来における生涯学習・社会教育の新たな役割について改めて考えさせられる研修でした。「変わりたくないこと」「変わり続けること」どちらも大事だ」という言葉が印象的でした。

(公民館経営・研修部会)

### 全公連表彰 被表彰者の紹介

令和4年度全国公民館連合会の各種表彰が決定し、県公連では次の方が受賞されました。

永年にわたり、公民館活動の振興と地域社会の発展に貢献してこられたことに深く敬意を表するとともに、心からお祝い申し上げます。

#### 【永年勤続表彰】

- 新田 淳 氏  
(川崎市教育文化会館田島分館)
- 谷口 なぎさ 氏  
(川崎市教育文化会館田島分館)
- 西島 万里子 氏  
(相模原市立相原公民館)

なお、新型コロナウイルス感染症対策のため表彰式は行われなかったため、ご所属をとおして賞状と記念品をお渡ししました。

(県公連事務局)

#### お知らせ

「70周年記念誌」を令和4年6月、「公民館の実態調査(令和4年度)」を令和5年3月に発行しました。いずれも、県公連のホームページでも閲覧できます。公民館活動にご活用ください。





### 令和4年度 館長・公民館運営審議会委員等研修会

「新しい時代に求められる公民館像とは？」

「公民館をネットワークの基点とした新しい

「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の展開」

令和4年度館長・公民館運営審議会委員等研修会を、11月11日(金)、伊勢原市中央公民館で開催しました。

前半は、公民館館長、職員等の人権意識を高め、豊かな人権感覚をもつて地域住民等に関わる事ができるようにするための人権講話、後半は、コロナ禍で影響を受けた人づくり・つながりづくり・地域づくりを進めるために公民館にできることについての講演が行われました。

研修機会の確保のため、集合とオンラインとの併用開催とした本研修会の参加者は、会場66名、オンライン52名、計118名でした。

#### 【人権講話の概要】

「性的マイノリティの

人権を考える

公民館にできること」

特定非営利活動法人SHIP

代表 星野 慎二氏

性的マイノリティの方は、20人に1人いるという調査結果があるにもかかわらず、身近に感じにくいのは、「いない」のではなく、当事者が偏見や差別、秘密を暴露さ

れてしまうのではないかと不安などからカミングアウトしにくい環境にあり、身近な人に話せないことが要因として考えられる。

一方で、性的マイノリティの方がカミングアウトしなくても普通に生活することができるとも普通ごしややすい・話しやすい環境にすることが大切で、そのためには次のようなことへの留意が必要。

- ・ 周りが性の多様性について理解すること
- ・ 言葉や色などで性別を決めつけたり、性別を分けたりしないこと
- ・ 名簿などでなるべく男女分けをしないこと
- ・ 「女らしく」「男らしく」ではなく「自分らしく」と考えること。

また、カミングアウトされたときは、感謝の気持ちを伝え、他人に漏らさないことを約束するなど相手の気持ちを考えることが必要。

#### ＜人権講話を聞いて＞

医療・福祉、教育の現場や一般企業でもジェンダーレス・平等に取り組んでおり、公民館でも何ができるのか考えて取り組んでいく必要があると思います。

#### 【講演の概要】

「3.11コロナ時代の人づくり・

つながりづくり・地域づくり」

公民館から切り拓こう！

学び続けられる社会を」

千葉大学教育学部 准教授

丹間 康仁 氏

全国10市へのアンケートによると、令和2年4月に史上初の緊急事態宣言が発令され、公民館を利用できなくなつて公民館本来の「集う」、「学ぶ」、「結ぶ」という循環が断たれ、公民館が果たす役割について苦悩する職員の姿が浮き彫りになった。

「学び」はどんなところで生まれるのかを考えると、人々が「集い」、自分と仲間との経験、価値観、考え方の違いを互いに認め合う社会教育特有の「ヨコの差」を生む交流の場にある。

集うことの重要性を再認識した現在では、「集い」を通じた学びを取り戻すとともに、オンラインのような新たなツールを活用してさらに学びを届ける機会を生み出していくことが、公民館の果たす役割ではないか。



丹間先生による講演

コロナ禍により交流の場が失われ、団体の解散や新規登録団体数の減少等があるが、新たな団体が誕生するような事業、解散してしまつた団体にもう一度戻つてきてもらえるようなきつかけづくりなど、人と人、人と公民館とを「結ぶ」役割を果たしていくことが今の公民館に求められている。

#### ＜講演を聞いて＞

公民館運営について悩みや課題を感じる中、明日への活力がわいてくる丹間先生のお話でした。講演中、短時間でしたが参加者



グループでの意見交換

同士の意見交換の時間が設けられましたので、そこで出された意見を抜粋して紹介します。テーマは「こんな公民館にしたい！こんな公民館でありたい！」です。

つながる場所／参加者がつながつていくような講座をつくりたい／憩いの場／なんでも相談にのってくれる公民館／多世代が利用する公民館／市民・利用者に愛される公民館／誰もが集う場、学びの場／人と人とのつながりを大事にする公民館／笑い合える公民館

(公民館経営・研修部会)

第64回神奈川県公民館大会

テーマ

「地域の拠点としての公民館」  
「人と学びをつなぎ続ける」  
「公民館を目指して」

◇日時 令和5年1月20日(金)  
13時～16時

◇会場 杜のホールはしもと

第64回公民館大会を、三年ぶりに集合にて開催しました。参加人数をコロナ禍前よりも少なくする等の新型コロナウイルス感染対策を行っての開催でしたが、209人にご参加いただき、集って学び、熱めて実感することができました。

◇大会式典・表彰式

県公連 夏井 美幸会長、相模原市教育委員会 渡邊 志寿代教育長による主催者あいさつの後、各種表彰を行い、来賓である相模原市本村 賢太郎市長、神奈川県教育委員会教育局 吉田 美和子生涯学習部長からご祝辞をいただきました。

○神奈川県公民館連絡協議会表彰

【優良公民館表彰】

- 相模原市立沢井公民館
- 相模原市立佐野川公民館
- 平塚市立なでしこ公民館
- 綾瀬市立中央公民館
- 寒川町民センター

【職員等功績表彰】敬称略

- 高木 徹 (綾瀬市立中央公民館)
- 別府 拓自 (寒川町民センター)
- 【永年勤続表彰】敬称略
- 高橋 小百合 (川崎市教育文化会館)
- 小畑 昌弘 (相模原市立大野中公民館)
- 中川 あをい (元藤沢市立六会公民館)
- 高野 直子 (藤沢市立片瀬公民館)
- 上野 眞弓 (藤沢市立片瀬公民館)
- 法傳寺 広子 (藤沢市立湘南台公民館)
- 榎本 妙子 (綾瀬市立中央公民館北の台地区センター)
- 高松 之江 (綾瀬市立中央公民館北の台地区センター)
- 高橋 智也 (元秦野市立鶴巻公民館)

◇講演

「今、あらためて公民館の意味を考える」  
青山学院大学 教授 鈴木 眞理 氏

・オンラインの活用については、技法よりも内容が大切  
・生涯学習と社会教育は同じではない。「学習」は学ぶこと。情報や考え方、行動様式によって変わっていくこと。「教育」は「学習」を支援すること。ただし、「勝手にどうぞ」でも、自分だけでするのもなく、多くの方が納得するよいことを伝えていく。



鈴木先生による講演

◇パネルディスカッション

「人と学びをつなぎ続ける」  
公民館を目指して」  
コーディネーター 鈴木 眞理 氏

- パネリスト
- 相模原市立大野中公民館長 大久保宗俊 氏
- 同市立大沢公民館 菅野 和子 氏
- 理事長 天羽 道子 氏
- 同市立星が丘公民館 坂井由美子 氏
- 学習文化委員長 高橋 浩 氏
- 館長代理 高橋 浩 氏
- パネリスト

・全体の利益を考える行政が学習機会を提供する、関わることの意味を考える必要がある。  
・公民館はいろいろな工夫をしながら、そこに在ることが大切  
・社会教育は制度化されればよいというものでもない。効率が悪くても、いろいろな人たちが試行錯誤し、合意形成しながら進めることに意味がある。  
・「社会教育とは何か」ということを、自覚的に考え続けることが大切

民が実行していくことを補完する役割を担っている。  
委員長より

・参加者がとてもよい表情をすることがやりがい。  
・参加者の対象年齢を示さず、「どなたでもどうぞ！」という方針で実行している。  
・コーディネーターのまとめ  
・課題はいろいろあっても、まずは始めてみる。行方中で、課題を解決していく。  
・社会教育はやりたい人たちがふさぐことをしない。やれるように支える。



パネルディスカッション

◇会旗引継ぎ

大会の最後には、相模原市教育委員会 渡邊 志寿代教育長から、県公連夏井会長へ、夏井会長から次期開催地の綾瀬市 永井 裕之市長環境部長に会旗が引き継がれました。

なお、第65回神奈川県公民館大会は、令和6年1月26日(金)に綾瀬市オーエンス文化会館にて開催します。(大会部会)



(9)

### 文部科学省優良公民館表彰 被表彰館の紹介

#### 平塚市立八幡公民館

平塚市には、ほぼ小学校区に1館の割合で25の地区公民館がある。八幡公民館は、昭和53年に開館。JR平塚駅から程近い場所であり、公民館周辺は住宅街、大きな工場、公共施設があり利便性が高いことから、新しく住居を構える方も多い。

また、地区の小学校内には地域の方々が開設した「やわた子ども村」があり、公民館との共催事業を展開している。

#### ◆みんな笑(わ)が子だ

やわたっ子

八幡公民館では、子どもたちを地域の一員として捉えている。集う場、育つ場をつくり、また八幡地区の伝統にふれ、文化を未来につなぐ活動を大切にしている。公民館の施設の枠にとらわれず、地域課題解決に向けて「今、何ができるか」を、地域団体、子どもたちと協力し、形にしている。

#### ◆やわた子ども村と共催事業

地域による子育てをと、有志が集まり、平成17年に小学校内の余裕教室を借りて「やわた子ども村」

が開設された。子どもたちが色々な世代の人と出会いながら、学ぶ場となっている。公民館とのつながりは深く、毎月3回の「囲碁・将棋・オセロ教室」や、夏休みの「ペットボトルロケット飛ばし」などを共に実施し、子どもの居場所づくりに取り組んでいる。



子どもたちで製作した  
ペットボトルロケット飛ばし

#### ◆伝統工芸に挑戦「だるまの絵付け教室」

地区内にある創業150余年のだるま屋さんを講師に迎え、小学生を対象に、色付けされていない「だるま」に色塗りや装飾をする教室を実施している。地域で守り続けられていく伝統の技に挑戦し、伝統を重んじる心と、地域愛を育んでいる。



だるまの絵付け教室

#### ◆コロナ禍でもつながりを

コロナ禍でも子どもたちに学びの場をとの思いで、「集まらない事業」を実施。コロナの影響が激しかった令和2年度でも6つの事業を展開した。「カブトムシを育てよう」の事業ではカブトムシの幼虫を配布し、子どもたちに観察記録をつけてもらい、その記録を館内に掲出した。また、毎年、利用団体の成果発表の場として開く「公民館まつり」は動画発表・会場風景をネット配信した。活動に取り組むことを継続でき、次の目標に向かう推進力が生まれた。



カブトムシを育てよう  
観察記録の展示

#### ◆地域でつくる季節の飾りつけ

公民館に七夕飾り、クリスマスなどの季節の装飾を展開している。装飾を見た公民館の利用者から「元気が出た」「公民館に来ると楽しくなる」などの声をたくさんいただいている。制作や材料提供に地域の方が参加し、来場する子どもたちの笑顔に期待を膨らませている。また、協力してくれる団体の方も増え、地域の楽しみになっている。



7月の  
七夕飾り→



12月  
クリスマス飾り→

#### ◆これからのビジョン

公民館に人を集めるのではなく、公民館の方から子どもたちと会いに行き、場所にとられない活動や事業を展開したい。また、八幡地区は住宅街で、農業や生き物と触れ合う機会が少ないので、公民館にカブトムシ小屋を設置するなど、そういった機会を多くつくっていきたい。

(主事 矢後 大輔)



山北町立生涯学習センター

山北町は、神奈川県西北部に位置し、面積の90%が山林からなる緑豊かな町です。当館は平成5年1月に生涯学習の拠点となる中央公民館として開館し、平成26年4月に幅広い用途で利用できる生涯学習センターに転用しました。

本館には、移動観覧席を備えた多目的ホールや茶室や舞台のある和室、映画上映可能な視聴覚ホールなどの貸し部屋のほか、町内唯一の図書室があります。図書室では、若い世代の読書離れを防ぎ、コロナ禍での感染予防対策として令和2年11月より電子書籍を導入しました。コロナ禍で外出が困難な中、本を借りに行かなくても自宅で気軽に読めると好評でした。現在は利用促進のため町内小中学校と連携し、朝読書で電子書籍を活用してもらおう体制を整えるほか、昨年度から郷土資料の電子化を進める中で、独自に製作した紙芝居の動画を配信しています。

また、多目的ホールでは昨年度ライブ映像配信システムを導入しました。これにより、動画配信サービスを利用したライブ映像配信や、多目的ホール内の映像を視聴

覚ホールで上映するサテライト会場の設置が可能となり、人数制限の伴う講演会や発表会などを有効に実施することができました。

今年度わが館は開館から30周年を迎えます。2月に行う予定の生涯学習センターフェスティバルでは記念品を配布し記念公演としてジャズコンサートを開催します。また、登録サークルによる作品展やコーラスやダンスなどの芸能発表会を行い、規模は小さいですがマルシェも開催する予定です。新型コロナウイルスに加え、世界的な物価高により私たちの生活は一変しました。しかし今後も開かれた生涯学習活動の拠点として利用者のニーズに沿った充実した施設として運営を継続していきたいと考えます。

(館長 池谷 千春)



生涯学習センター外観

座間市立東地区文化センター

座間市は、神奈川県中央に位置する人口13.2万人の都市で、地下水を汲み上げたおいしい水「ざまみず」、座間市マスコットキャラクター「ざまりん」があります。また、令和4年10月に、縄文時代の埋蔵文化財「顔面把手(両面)」が市内では初めての顔を表現した遺物として出土しました。

当市には3館の公民館があり、わが館は、昭和56年4月に開館されました。様々な世代の地域の方に親しまれています。また、30年以上続く高齢者学級「あすなる大学」があります。

2年ぶりに2つの催しを開催

こども祭りの「サマーアイランド」は、7月10日に、例年と異なり2時間のみスタンブラリー方式で開催。地域の大人が、ざまりん版画、ゲーム、読み聞かせなど6つの部屋に分かれて、来場者を迎え、子どもは、カードにスタンプとシールをもらい館内を巡りました。乳幼児の親子、お久しぶりの小学生などが来場、館内に笑顔と賑わいが戻りました。

みんなでつくる文化祭は、10月14、15、16日に開催しました。会場では、利用団体の作りためた手工芸作品や、書や絵画の展示、吹奏楽などの演奏や歌唱、演武の催し、軽食と飲み物の模擬店など、

盛会に終わりました。可変するコロナ禍で、みんなで行事を計画、感染拡大の合間に、実施が叶ったのは、本当にラッキーでした。開催できたことに感謝し、見つかった課題は次に生かします。



東地区文化センター外観

今後の催しでは、感染症の状況にもよりますが、地域、子どもたちや福祉施設などの参加を呼びかけ、リアルでつながる楽しさを分かち合い、交流の輪を広げたいと思います。わが館は、これからも新しい出会い、学習機会やかまと集まる場の提供、ニーズの模索を続けて地域の活動拠点としての役割とは何なのかを問いながら、今できることに力を尽くしてまいります。

(主査 本山 暁代)





## サークル紹介

### 『大和ハーモニカ愛好会』 大和市生涯学習センター

「大和ハーモニカ愛好会」は、  
 複音ハーモニカ担当10名とコー  
 ドハーモニカ1名、バスハーモニ  
 カ1名で、ハーモニカアンサンブ  
 ルを楽しんでいます。複音ハーモ  
 ニカはCとC#、Amの3本を使  
 います。Cはハ長調用、C#はCの  
 半音上になります。ピアノでい  
 えばCが白鍵、C#が黒鍵になり  
 Amは短調用です。複音ハーモニ  
 カ担当は、ファーストとセカンド  
 になります。ファーストは主にメ  
 デイーを、セカンドはファースト  
 に和音を合わせたり、ファースト  
 が休符で音を出さない時、いわゆ  
 る「合の手」を入れたりします。  
 複音担当10人のうち5人は、昨年  
 11月の演奏会と体験会を兼ねた  
 コンサートを聞いて入会した新人  
 です。

令和5年1月には、あつぎハー  
 モニカ協会が主催するコンサート  
 があり、また3月には大和市生涯  
 学習センターまつりがあります。  
 この両方に新人を含む全員で出  
 場するつもりです。

練習は毎週金曜日13時30分  
 から15時30分まで行っています。  
 私は小学生の頃からハーモニ



大和ハーモニカ愛好会の皆さん

カが好きで、Cのハーモニカを買  
 ってもらい、学校で習う曲はなん  
 でも楽譜を見ないで吹いていま  
 した。ところが、卒業式の後の謝  
 会で担任の先生が吹いてくれた  
 『ドナウ川のさざ波』はどうして  
 も吹けませんでした。それから50  
 年後、ハーモニカを習い始めて、  
 この曲に挑戦してみたら、苦もな  
 く吹けてしまいました。Amのハー  
 モニカを使ったのです。この曲は  
 CではなくAmで吹く曲だったので  
 ず。独学では遠回りをしている  
 こともあると思いました。

会への入会も、見学も常時受け  
 付けています。金曜日の午後、大  
 和市生涯学習センターへ来てみて  
 ください。生涯学習を始めませ  
 んか。  
 (会長 林 清隆)

### 『大井町ウクレレサークル』 大井町生涯学習センター

人生100年時代が到来し、人生を  
 有意義に暮らしたいと思った時、  
 何か楽器が弾けたら楽しいだろう  
 と思いました。そこで身近で可愛  
 らしく、音色も癒やし系のウクレ  
 レに挑戦することになりました。  
 早速仲間を募り8名が集まり、講  
 師は大井町のハワイアンバンド、  
 カマカ・ハワイアンズでウクレレ  
 奏者の高橋明先生にお願いし発足  
 致しました。

グループ名、レレは「ウクレレ」  
 から、アロハはハワイ語で「こんに  
 ちは・今晩は」から『レレ・アロハ』  
 と命名しました。

平成23年3月、大井町文化団体  
 連絡協議会に承認され、4月より  
 大井町生涯学習センターにて、月  
 3回木曜日、昼と夜のグループに  
 分かれて練習を開始しました。

メンバーはシニア世代が中心  
 で、初めはなかなか上手に弾けま  
 せんでしたが、一生懸命練習し、  
 結成わずか半年で大井町文化祭に  
 初参加することが出来ました。

現在は26名のメンバーが在籍  
 し、大井町文化祭・芸能祭り・介  
 護施設の慰問・地域のイベントな  
 ど幅広く活動しています。曲目は  
 ハワイアン、オールディーズ、ポ  
 ピュラーなどレパートリーは約  
 80曲、聴いてくださる皆さんの笑



文化祭の様子

顔を見るのを楽しみに練習に励  
 んでいます。

令和2年、新型コロナウイルス  
 による感染が拡大し、緊急事態宣  
 言が発令され、3か月の外出自粛  
 期間となりました。『レレ・アロハ』  
 は先生から練習曲を頂き自主練習  
 となり、仲間と一緒に練習する日  
 が待ち遠しかったことが思い出さ  
 れます。この時、共に一つの曲を  
 演奏し、歌い、笑い合える仲間の  
 大切さを実感しました。

今日まで楽しく『レレ・アロハ』  
 の活動ができたのは、高橋先生の  
 温かく優しい指導のお陰と感謝し  
 ています。

大井町にこれからもウクレレの  
 音色と美しいハーモニを楽し  
 む仲間達と届けたいと思います。  
 (代表 仲宗根 さとみ)



表紙

「愛川町 文化会館」

愛川町役場に隣接し、昭和58年の開館以来、愛川町の中央公民館として、また生涯学習の拠点として多くの方々に親しまれています。

1階には539人収容のホールがあり、合唱やダンス、吹奏楽などのサークル活動の発表の場として利用されています。その他にも若者を対象とした音楽祭や、高齢者を対象とした講座、毎年1月に行われる成人式など、町主催のイベントも年間を通じて数多く行われています。

2階には図書館が併設されており、図書の貸出や学習の場として利用されています。また、読書普及啓発活動の一環として、ボランティア団体による人形劇や絵本の読み聞かせを開催し、未就学児のお子さんに好評をいただいています。さらに乳児を対象としたブックスタートル事業では、子育て支援センターと協力しながら絵本のプレゼントと読み聞かせを行っています。

そのほか会議室や和室、展示コーナーなどもあり、あらゆる年代の生涯学習活動に根差した場所となっています。

・所在地 愛川町角田 250番地の1  
 ・開館時間 午前9時～午後10時  
 (現在は新型コロナウイルス感染症予防のため、午後9時閉館)

・休館日 毎週火曜日、年末年始

・電話 0462(85)6960

・最寄りのバス停「愛川町役場」または「文化会館入口」

令和5年度総会(予定)

・期日

令和5年5月26日(金)

午後

・会場

川崎市麻生市民館

川崎市麻生区万福寺

1・5・2

・交通

小田急線新百合ヶ丘駅

下車北口徒歩3分

※同日開催

「館長職員等研修会」

編集後記

県公連では、今後の活動のあり方について検討してきています。「公民館かながわ」も総会で年一回の発行(全12ページ)が正式に決定となりました。今回はそれを受けての発行です。コロナ禍の中で制限もありましたが、オンライン会議を取り入れるなどの工夫等しながら紙面構成の充実にあたってきました。

また、今年度は「70周年記念誌」や5年に一度の「公民館の実態調査」の集計作業並びに報告書の作成も手がけ、その発行にも至りました。

今後の広報紙等についてご意見を頂ければ幸いです。

(総務・広報部会)

公益社団法人 全国公民館連合会

公民館総合補償制度

この制度は公益社団法人全国公民館連合会の団体制度です。市町村の公民館および自治公民館、また公民館に準ずるものとして全公連が加入を認めたその他の施設等は名称を問わずご加入いただけます。

3つの補償で公民館活動をサポートします。

- |  |  |  |
|--|--|--|
| <p><b>1. 行事傷害補償</b><br/>                 全公連見舞金制度<br/>                 + 災害補償保険<br/>                 (公民館災害補償特約、<br/>                 熱中症危険補償特約)</p> | <p><b>2. 賠償責任補償</b><br/>                 賠償責任保険<br/>                 (施設所有管理者特約、<br/>                 昇降機特約)</p> | <p><b>3. 職員災害補償</b><br/>                 全公連見舞金制度<br/>                 + 普通傷害保険<br/>                 (就業中のみ危険<br/>                 補償特約)</p> |
|--|--|--|

補償範囲や対象者が広い制度です。

年1回の手続きで安心です。

掛金には割引制度もあります。

\*このご案内は、本制度の概要を説明したものです。詳細については取扱代理店または引受保険会社までお問い合わせください。

■取扱代理店(お問い合わせ・資料請求先)

**エコー総合補償サービス株式会社**  
 〒101-0047 東京都千代田区内神田2-6-9  
**TEL: 0120-636-717** (通話料無料)  
**FAX: 0120-226-916** (通話料無料)  
 (受付時間: 9:15から17:00まで)

■引受保険会社

**損害保険ジャパン株式会社**  
 営業開発部第三課  
 〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1  
**TEL 03-3349-3820**  
 (受付時間: 9:00から17:00まで)

(SJNK19-12506) 2020年1月15日作成 [2001K-00]



KANAORI ホームページ制作・Web広告  
 おまかせください!!  
 お問い合わせはお気軽に!  
 株式会社カナオリ 〒243-0021 神奈川県厚木市岡田 3088 カナオリ 検索  
 TEL: 046-226-0339

地域情報紙「も」発行する総合情報企業へ  
 紙面以外のPR事例を紹介 ご用命はお電話でどうぞ  
**も**  
**046(220)1600**  
 厚木市岡田3088 ケーオービル5階

**O-ENCE**  
**AMENITY FRONTIER**  
 快適な都市空間をクリエイトする  
 地域団体や公益法人とのパートナーシップにより、  
 公共施設の利用価値を高め、  
 地域の活性化に貢献してまいります。  
**株式会社 オーエンス**  
 〒104-0061 東京都中央区銀座4-12-15 歌舞伎座タワー20階  
**TEL 03-3544-1551 FAX 03-3544-1560**  
 E-mail info@o-ence.co.jp